

## 大震災対策ニュース No. 23

2011/3/30

### 遠井先生 (第 5 次宮城支援チーム責任者) より

#### 『ふりかえり』報告をいただきました!

先日帰宅しました。

現場は日々変化しております。第 5 次支援隊が坂総合病院を訪れたときは、全国各地の医療生協からの支援がきているため、医師はむしろ過剰な状態でした。

24 日、医療支援チームは、過剰のため非医療チームに参加。途中で診療も加わりましたが、むしろ医療以外の役割が多かったと思います。

25 日は、地域訪問に出ました。支援が行き届いていない本当に小さな避難所。1 体育館あたり 10 人規模のところもあります。2ヶ月の子供が、沐浴もできずに経過。若いお母さんはやや育児放棄。同じくらの赤ん坊がいる家族もいましたが、こっちの家族は、『お風呂は使えるが、家にひびが入ってきているため避難している』と。こちらの家族に頼んで、子供だけでもお風呂に入れるよう仲立ち。研修医を中心に素晴らしい支援ができました。

非医療チームとして、聴診器すら持たずに避難所をまわっていたときに、意外と多くの相談をされました。風邪や胃腸炎もそうですが子供の体調の事、ミルクの事、高校生の巻き爪の事、子供の湿疹、家族の体調などなど……、本当にたくさんの相談をされました。フィールドはまさに普段の家庭医としてのフィールドでした。自分たちは今こそ必要とされていると感じました。

現在は、急性期医療の医療は落ち着き始めており、継続的な医療が求められてきていると思います。

毎日違う支援者が避難所に行くので、『昨日持って来てくれると言っていた物を、今日、持ってきてくれなかった』などの問題が起こっています。今後は長期的な滞在(最低1週間)をした上で、継続した支援が必要と感じました。

また医療と同時に日常のケアや、今後の生活の相談などが求められてきています。医療者、特に医師は医療以外の活動が求められる機会が増えています。

自分が『何ができるかではなく、相手が何を求めている、どう答えられるか』を意識する必要があります。ぜひ、現地のニーズ調査をして、そのニーズに答える支援を継続していただければと思います。

### 第 6 次宮城支援チームから続報!

今日の支援は、避難所回り。別チームの看護師さんが『返事のしっかりした元気な青年が、PTSDであった』との報告。見た目では分からない、落ち着いてきたように見える現地ですが、緊張感を覚えます。古田さんは、午前・午後ともよく動いていました。ちょっと手持無沙汰そうでした。  
(医局會田 発)

情報を対策本部(歯科クリニック 2 階)へ集中してください。

[h.ooneda@kawai-kyo.or.jp](mailto:h.ooneda@kawai-kyo.or.jp)